

令和 2 年度仙台市若林区まちづくり活動助成事業  
実績報告および質疑応答（質疑まとめ）

《報告の流れ》

1 団体 8 分で発表。1 団体ごとに評価委員による質疑をし、最後に評価委員長から総評を得る。

いきいき六郷運動教室

いきいき六郷運動教室

- Q コロナ禍の中で活動していくのは大変だったと思う。広報用のマスクはどの程度作成し、どのように配布したのか。
- A ラベル付きの個包装のマスクを 100 枚程度作成し、地域のサロンなどに配布した。
- Q このような状況下でも活動を継続し、会員が増えていることに敬意を表したい。会員が 2 人退会したとのことだが、どういった理由で退会したのか。コロナ禍は関係あるのか。
- A コロナ禍は関係なく年齢的なものが理由である。  
新年度は東六郷コミュニティ広場での活動も考えているとのことなので期待している。

地下鉄を利用した逸品探し街歩き体験ゲーム

東北被災地の食を応援する団体 U・MY・ONE

- Q 初めは、形になるのか不安なところもあったが、コロナ禍での新しい街歩きイベントの形として、色々なところに応用できる企画だと思った。順位・点数による景品はどのようなものを渡したのか。
- A コロナの影響で閉店した知り合いの方のお店で、宮城県のご当地グッズやキーホルダーなどの商品が大量に売れ残ってしまったと聞いて、それをイベントの景品として買い取り、提供した。第 2 回目のイベント時の景品も同様のものを考えている。
- Q コロナ禍において、色々な配慮をなされながら、イベントを実施されたものと思う。第 1 回目のイベントを視察させていただいたが、折り返し地点の荒井駅に予定時刻までに到着できなかったチームが多く見受けられたが、最終的な目標時刻 15 時までのゴール地点に全チーム間に合ったのか。
- A 第 1 回目ということで、時間が読めない部分もあり、12 時 30 分荒井駅到着の予定に対して、遅れたのが 6 チーム中 2 チームあったが、最終的な 15 時のゴールには全チーム間に合った。これは遅れたチームに対しては、午後の復路では、一部省略した形でゲームを進めてもらった。最初のルール説明でも遅れた場合のことは伝えており、順位を競っている関係上、点数に差が生じることも理解していただいている。
- Q 第 1 回目に参加された方でリピーターの方はいるか。
- A リピーターはいない。第 1 回目の参加者の中には、また参加したいなどの声もあったが、第 1 回目と第 2 回目のお店がほとんど同じであったこともあって、あえて案内はしなかった。色々なお店を訪問していただきたい気持ちはあるので、今後、お店のバリエーションを増やしていき、参加していただいた方にも案内をしていきたい。
- Q 第 1 回目の案内チラシに仙台市教育委員会後援とあるが、どのような後援をしてもらったのか。

A チラシを配布する際に、小学校に依頼をして、小学校から児童へ配っていただいたが、仙台市教育委員会の後援があったほうが、小学校への依頼がしやすいため、後援をいただいた。

Q 小学校へチラシを配布して、そこからの応募はあったのか。

A 参加者のうちほとんどが、小学校からのチラシをみての応募であった。

Q 参加者とお店へ参加してみてもアンケートはとったか。

A 感想という形ではまとめたが、アンケートはとっていない。

**意見** 評価を客観的にとらえた方がいいと思うので、アンケートをとったほうがよい。

**意見** 第1回目が事故もなく無事開催できたこと素晴らしいと思う。2つ意見があり、一つ目は地下鉄乗車券を含めた参加費1,000円に併せて逸品は実費負担で買っていただくということで、この中に+の付加価値をどのように込めていくのかが重要だと思っている。例えば、当日配布される地図がとてもおしゃれで、どこにも売っていないものや、当日に親子や友達と歩いた記録がアルバムになって手元に届くなど。1000円+の参加費用は、体験に対してお金を払うことでもあるので、そのあたりを意識して試行錯誤を繰り返し、よりよいものを作り上げていただきたい。2つ目は、この企画は地元のお店との連携があって成り立つものであり、地下鉄東西線を利用することで、乗客数も伸びて、レジャー客を取り込むことができる、とてもいい企画だと思う。地元の商店会の方や、仙台市交通局など、もっと連携できる相手がたくさんいるのではないかと思う。たった1回の開催報告でも、とても可能性を感じたので、今は新しい仕組みをつくることで手一杯だと思うが、ゆとりができれば連携先のところを少し意識しながら、動いていただけると、さらに広がりが生まれ、よりいい企画になると思う。

## 荒町エリア魅力発信事業

### 荒町エリア発信隊

Q 今回で2回目の助成ということで、前年度の成果を踏まえつつ、コロナ禍での活動へと上手くシフトされていてとても素晴らしいと思った。若林区まちづくり活動助成事業として採択されて、助成金を利用したことのメリットはどういったところで感じているか。素晴らしい取り組みなので、今後の参考までに教えていただきたい。

A 特に1年目は、自分たちがどのような活動をしているのかを、相手側がよく分かっていない状況の中で、若林区が支援していると言えるのがすごくありがたかった。特にフリーペーパー製作過程で、お店を1件1件回って取材交渉をする際に、この事業は若林区の助成金を使用していると言えるところが、すごく信頼感に繋がったことがあった。

**意見** 非常に素晴らしい取り組みで、地元の商店街のみなさんとのやりとりがないと生まれにくいプロジェクトであると思った。今に至るまでどうやって関係性を作っていたのか、どういうふうに協力をいただいたのか、ボランティアスタッフの集め方などチームで培ってきたノウハウを他でまちづくり活動されている方達と共有する場面があればいいなと感じている。それぐらい内容がしっかり詰まった取り組みだと思う。

A ノウハウの共有については、同じことを考えており、いままでの取り組みを資料にまとめ

ている段階である。この活動をしていると、個人的に興味があると聞かれることが多いので、何かそういう場があればお声がけいただければと思う。

Q 動画を作る中で、団体側で撮りたいものと、お店側で映してもらいたいものとの間に違いがあり、調整に苦労したとのことだがどんな内容か。

A メンバー内では、商店街全体を撮影して、まちを盛り上げるためのPR動画を作りたい想いがあるが、お店側の要望の中には、個々のお店に特化したPRを望むところもあり、一つのお店に特化した動画ばかりだと、他のお店も同様に撮影してほしいとなってくるので、そのバランスのとりに方に苦慮したところがあった。また1年目ということもあり、動画づくりに慣れていないこと、製作に取りかけられる時間に限りがあることから、全ての要望をかなえるのは難しいところがあった。

**意見** 一つ一つステップアップした活動となっており、素晴らしいと思う反面、あまりにレベルアップして手の届かないところになってしまうのは寂しいと思っており、3年目には歌のプロジェクトも始まるということで、敷居が高いものではなく、今から混ざりたいという荒町の方も広く迎え入れていただきたい。例えば、子ども達を特別枠などで、商店街の方たちや、うたのプロジェクトなどに関わりを持たせていくことで、素朴な子供たちの疑問に、思わず商店街の方の面白い本音がぼろっと出ることがあるかもしれないし、子ども達も活躍する荒町の方をみることで、憧れとなることもある。また中学生は、土日の部活動が制限されているところもあり、時間があるので、そういうところにも声をかけるとさらに荒町を深く知りたい子ども達も増えると思う。

A 荒町商店街では、荒町小学校や児童館と仲が良いという土台があり、荒町商店街にて行ったりリモート合唱のプロジェクトや紙芝居プロジェクトでも荒町の子ども達を巻き込んで進めることができた。今年度はその活動にも関わっていたので、来年度についても、どういった形となるかはわからないが、地域全体、特に子ども達を巻き込むようなプロジェクトにしたいと考えている。

#### 評価委員長から総評（コメント）

団体の皆さま本日はお集まりいただきありがとうございました。報告を聞くと、今年度は新型コロナウイルスで大変な一年だったと思います。事業の実施にあたっては、残念ながら2団体が辞退ということで3団体の報告となりました。それでもコロナ禍の中でも3つの事業ができたことは、大変素晴らしいと思います。今年度は密を避けることが大命題でしたので、そんな状況の中で果たして事業ができるのかと思っており、皆さまにおかれても、本当に苦労されたのではないかと思います。コロナにもめげずに本当に頑張って活動をやり遂げていただいたことは、評価委員の我々も頭が下がる思いです。コロナ禍においては、人と人との距離をとらなければならない、初めて経験する大変な事態だと思います。まちづくりは、人づくりでもあり、人と人との距離をいかに縮めるかが、大きなテーマとしてあるので、今年度はとにかく距離をとる、近づかない、といった状況下で大変ご苦労されたと思います。子ども達も、密になれない厳しい環境下であり、成長期にこういった経験をしたことで、将来どんな影響があるのかと大変心配しているところです。こういう厳しい時代でも、皆さまの活動のように前を向いて一生懸命やる大人の背中というのは大変重要だと思いますし、子ども達を巻き込んでの活動は、子ども達にとって、経験・財産

として生きていくものだと思っています。

いきいき六郷運動教室様におかれては、ステイホームで運動不足になりがちの中で、体を動かし、ストレスを発散して、健康でいることは、今求められていることだと思います。今後も十分に感染防止対策に努めて、楽しい教室運営をぜひお願いしたいと思います。

U・MY・ONE様におかれては、このコロナ禍の中で、旅行ができないということで、大変ストレスが溜まっている方が多いと思います。そのような中で、マイクロツーリズムという、身近な旅が大変注目されており、身近で楽しいことを発見していくということが、非常に大事な時期でもあります。そういった意味では、この事業をこれからも続けていってほしいと思います。

荒町エリア発信隊様におかれては、SNSが身近になった世の中で、動画に目をつけられ、見るだけではなくて、作る側に回って、まちづくりに繋げていく、こういった着目が非常に素晴らしいと思っています。活動に参加する人を増やしていくことが、各団体の大きなテーマの一つにあると思いますが、自分はこれが苦手だけどこれが得意だから参加してみようかなど、いかに興味を持ってもらい参加してもらうか、この興味の切り口をどのくらい持っているかで活動の広がりには大きな影響を与えるだろうと思っています。来年度は3年目ということで、ぜひ自立化に向けた取り組みを加速させていっていただければと思いますが、事業をたくさんこなすすぎて、燃え尽き症候群にならないように一つ注意していただければと思います。

コロナの収束まではもう少し時間がかかるように思いますが、ぜひ地域をつなぐ活動を今後も展開していただいて、どんどん色々な方々を巻き込んで、活性化した若林区となりますように皆さんのお力添えを今後ともよろしく願いいたします。